

嘉瀬公民館だより

Kase 1

2021
(令和3年)
月号



発行／佐賀市立嘉瀬公民館

嘉瀬校区の人口 (11月末現在)

世帯数	2,116	世帯	男	2,232	人
人口	4,875	人	女	2,643	人

〒840-0861 佐賀市嘉瀬町中原1690番地

TEL・FAX／0952-26-5208

E-mail／kkase@city.saga.lg.jp

新年のご挨拶

明けましておめでとう
ございます。

旧年中の公民館運営へ
のご支援とご協力に對し
まして、心よりお礼申し
上げます。

昨年は春から、全国的に「新型コロナウイルス」で「三密」の回避を強いられ、嘉瀬町の行事はことごとく中止になりました。また、各種団体の総会も文書での決議という未曾有の事態となりました。

そんな中でも、各サークルの皆様方は様々な工夫をして、公民館での活動を楽しんでおられたことは歓喜に堪えません。

公民館主催の各講座もいろんな配慮をして、順調に実施することができました。

嘉瀬公民館の今年度のメインテーマは「笑いと健康」です。

いろんなストレスがやってきても、快活にそして適切に対応して、安定した生活を送りたいものです。

今年「コロナ後の普通の生活・活動が楽しく伸び伸びとできる」ことを念じて、公民館の企画運営を推進していきます。

みんな「モーウ・良い年」にしていきましょう。

嘉瀬公民館館長 別頭道明



嘉瀬町藍のものがたり (3)

藍・愛をつむぐ会

嘉瀬公民館に併設する藍染未来工房で活動する藍・愛をつむぐ会は、現在会員数27人。一年を通して藍染めに関するさまざまな活動を行っています。

青藍の教えを後世に伝え、また郷土愛を育むため、2002年から町内の婦人会OBを中心とした有志が嘉瀬町で藍の栽培を始めました。その後2005年に藍・愛をつむぐ会が発足。藍と綿を種から育て糸を紡ぎ、藍液作り、藍染め製品作りなどに取り組んできました。

藍・愛をつむぐ会はPTA、公民館と連携し毎年嘉瀬小の6年生とその保護者に藍染めの指導を行っています。6年生は自分で染めたハンカチを身に着け音楽会に出演したり、藍染め製品を作って地域のおまつりで販売したりすることで、ふるさとを誇りに思う心を養っています。

2009年からは嘉瀬小のクラブ活動支援も始まり、藍染めはもとより、綿摘み、糸繰りなどの貴重な体験の場を子どもたちに提供しています。

代表の右近久代さん(新町)は、「藍染めの活動で大変なのは、藍を種から育てて葉を収穫すること。畑仕事は特に夏場は辛いこともあります。それでも嘉瀬町に住む仲間が集まって、和気あいあいと自分の好きな藍染め作品を作るのは楽しい。工房でみんなとおしゃべりしたり、小学生とふれあったりするのは会員の生きがいになっている。これからも元気でがんばりたい」と笑顔で語ってくれました。

(題字 書道クラブ 鈴木和代さん)



嘉瀬公民館から
お知らせとお願い

- ・大会議室・小会議室の高机の移動は、必ずストッパーを外してから行ってください。
- ・お帰りの際は、忘れ物がないかご確認ください。忘れ物は一定期間過ぎると処分します。

主催事業 報告

ことぶき大学 今年のテーマ『笑い与健康』

健康体操 自彊術(じきょうじゅつ)

第5回 11月24日(火)

「自彊術」は大正時代に創案された健康体操かつ治療術です。日本全国で教室が開かれていて、佐賀市でも多くの公民館で自主サークルが活動されています。講師は自彊術普及会指導員の副島美保さん。嘉瀬の自彊術サークルの指導をされています。

講座は自彊術の31種類ある動作の中から、呼吸法に始まりストレッチやスクワットなど、いくつかを選んで行いました。動作や効果の説明では時々冗談も交えながらの指導に、みなさん楽しく体験されていました。

今回は自彊術を体験しましたが、それぞれ自分に合った健康維持の方法を見つけて続けていただければと思います。(参加者16人)



ことぶき大楽寄席

第6回 12月15日(火)

「笑い与健康」をテーマに開催した全6回の講座の最後は、落語を楽しむことになりました。講師は佐賀ユーモア協会の落語部会から、落楽亭粋夢こと山口俊治さん、せんだん亭三鶴こと小林宣洋さん、楽々亭一笑こと別頭道明嘉瀬公民館長の御三方。

初めに「落語入門」と題して落語の起源や高座の意味など基礎知識のお話があり、続いて粋夢さんの「笑って健康」の講話と小晰、一笑さんが落語「親子酒」、三鶴さんが落語「粗忽長屋」を披露されました。

このご時世、大人数で大笑いとはいきませんが、参加者のみなさん楽しいひと時を過ごしていただけたものと思います。(参加者26人)



子育て応援講座

毎月第2・4木曜日に活動している子育てサークル「かせっこマーチ」との共催で、親子の絆を深めるマッサージの講座を10月29日(木)に開催しました。

講師は昨年引き続きアロマセラピストの宮近由紀子さん。初めにお母さんたちの手に柑橘系の香りのするオイルが数滴ずつ配られました。宮近さんは「普段がんばっている自分自身もいたわって」と話し、手や顔のマッサージ方法を紹介。よい香りに包まれリラックスしたお母さんたちは、宮近さんの説明をききながら子どもたちに優しくマッサージを施しました。

(参加者親子7組)



みどりを楽しむ教室

みどりのカウンセラー中川達也さんを講師に招き11月21日(土)、みどりを楽しむ教室を開催しました。

前半は公民館の大会議室で草花の育て方などの講義。ユーモアたっぷりの先生のお話により、会場からはしばしば笑い声があがりました。パンジーは春遅くまで楽しめる人気の花ですが、暖かくなって水やりを怠り弱らせてしまうと虫がつきやすくなるそうです。ツマグロヒョウモンという蝶が特に好むそう。花がら摘みや水やりを続ければ、長期間花を楽しむことができるとのことでした。

寄せ植えの実習は駐車場で行いました。好きな花苗を選び配置を決めます。参加した人は、先生のアドバイスを受けながら思い思いに寄せ植えづくりを楽しんでいました。

(参加者21人)



社会人権・同和教育推進協議会

人権講演会

すべての人の人権が尊重され、共に支え合い、共に生きることができる「共生社会の実現」を目指し、嘉瀬町では毎年小学校と連携し人権学習会（講演会）を開催しています。今年はジャグリングパフォーマーの喜多和裕さん（佐賀市在住）をお招きし、11月13日（金）に嘉瀬小学校体育館で開催。全校児童240人に加え、保護者や地域の方約40人が参加しました。



喜多さんは静かな語り口で、自身のこれまでにについてお話をされました。小学校2年生の途中からほとんど学校へ行かなくなったけれど、不登校の子どもなどのためのフリースペースに通うなかでいろいろな出会いがあったこと。ジャグリングと出会いプロを目指してサーカス学校へ入学したこと。またフリースペースという安心できる居場所があったことが自分を支えてくれた。誰にでも安心できる居場所が必要だと訴えました。

お話に続いてジャグリングのさまざまな技が披露されました。終盤になると難易度が上がり、失敗する場面も。すると小学生から「がんばれー!」「がんばって!」という声援が沸き、次の挑戦で成功すると会場は大きな拍手と歓声に包まれました。

子ども会



チューリップの球根植え

嘉瀬町の子どもたちが11月29日（日）、フラワーロードにチューリップの球根を植えました。小学生約35人と子ども会役員や保護者が参加。老人クラブの方々と協力して作業し、まちづくり協議会環境部会が用意した約1,300個の球根を1時間ほどかけて植えました。

毎年恒例のこの行事は、今回は人数を制限して開催されました。嘉瀬子ども会会長の高取秀美さんは「今年は行事がほとんど中止になり、子どもたちは寂しい思いをしているかも。球根植えだけでもできてほっとした。花が咲いた時の喜びも感じてほしい」と話し、参加した子どもたちを労いました。



まちづくり協議会

3校区親睦グラウンドゴルフ大会

嘉瀬、久保田、鍋島の3校区から20人ずつが参加し、10月30日（金）にグラウンドゴルフ大会が開かれました。

嘉瀬まちづくり協議会が主催し森林公園の協力を得て初めて行われたこの大会は、森林公園の広々とした芝広場が会場。参加した人は青空のもと、日頃の練習で鍛えた腕前を披露しながら親睦を深めました。



かかしのアイデアコンテスト

今年度はかかしまつりが中止になったため、代わりにかかしのアイデア（イラスト）を募集し、審査会が行われました。

92点の応募があり、小学生低学年・幼児の部、小学生高学年の部、中学生以上（一般）の部でそれぞれ入賞作品が選ばれました。詳細は地域コミュニティサイト「つながる嘉瀬」をご覧ください。



つながる嘉瀬

嘉瀬町探訪 — 虫供養塔（扇町）

扇町の住宅街の一角に、ひっそりと建つ古い石塔があります。「虫供養塔」です。

貞享二(1685年)乙丑際十一月十九日

謹奉読大乘妙典壹萬部

為 五穀満田虫供養成就

(碑面より抜粋)

佐賀藩第二代藩主鍋島光茂の時代に、庶民により建立されたこの塔は県内唯一の虫供養塔で、当時の信仰習俗を知るうえで極めて貴重とされています。以前は近所の方の手により榊が上げられ清掃されていたそうですが、現在は周囲に草が生い茂っています。

日本近世には「虫送り」(虫追い)の風習があり、全国的に流布していました。夏の土用の初め、もしくは田植えが終わった頃松明をともし鉦や太鼓で虫を地区の外へ送ります。農薬などなかった時代のこと、油を撒くなど原始的な手法で害虫駆除を行っていましたが、昔の人は害虫にも靈魂があることを信じて供養を施し、送り場には塚を建てました。

扇町の虫供養塔は、人の背丈を超える立派なもので、これほど大きなものは全国的にみてもかなり珍しいそう。昭和55年に佐賀市重要有形民俗文化財に指定されています。

(参考引用:『トンボと自然観』上田哲行編)



まちの話題 ふれあいの集い

嘉瀬小学校の3年生と地域の高齢者が交流する催しが11月18日(水)、嘉瀬小青藍ホールで開かれました。

3年生は1年を通じた総合的な学習の中で、ボランティアや高齢者などについて学習するそう。この日高齢者のみなさんに楽しんでもらうため、1カ月前から準備を進めたとのことでした。6、7人の班に分かれて、劇や〇×クイズ、お手玉、輪投げなど自分たちで考えて手作りした出し物を披露し、高齢者と和やかなひとときを過ごしました。

地域からは、せいらんボランティアの会員や社会福祉協議会役員など約20人が参加。一人暮らしという女性は、「自分には子どもがいないので学校のことには関心がある。元気である限り、運動会やふれあいの集いなど学校で行われる行事にはぜひ参加したい」と話し、子どもたちのはつらつとした様子に目を細めていました。



みそ作り講座参加者募集

嘉瀬町産大豆で作る、安心・安全な手作りみそです。今年度最終回です。

日時 2月17日(水)13:30～
場所 嘉瀬公民館 藍染工房
講師 ふるさと先生嘉瀬会
対象 どなたでも
定員 5人(先着順)
材料代 麴1kg当たり約800円
申込期限 1月20日(水)
その他

- ・麴5kg単位でお申し込みください。
- ・エプロン、三角巾、マスク、みそを入れる容器を持参してください。
- ・参加者全員で協力して作業を行っていただきます。

